

2023年12月1日

学生生活審議会御中

東北大学学生支援課御中

日就寮委員会

「東北大学の学生寄宿舎に入寮希望される方へ」における日就寮の記述について

記

全ての学寮についての特記事項として記載のある「大学で修理修繕を実施しておりますが、施設設備の老朽化がかなり著しい状況です。」という記述に関する要求書

当記述について、昨年の公開質問状提出以前から、日就寮委員会はその撤回を求めてきました。

その理由は、あたかも居住が困難かのような印象を与え得る当該記述によって、本来福利厚生を必要とする学生が入寮を躊躇してしまい、その結果として家賃等の経済負担の増加につながってしまうという懸念が存在するためです。実際に、入寮を希望する学生の方から家賃の支払いのためアルバイトに多くの時間を割かざるをえず、学業に専念できないとの声を頂いています。このような状況は学寮の理念にも反することであると考えています。

こうした背景のもと、昨年送付した公開質問状においては、老朽化と判断している理由やその撤回の是非について質問いたしました。

さて、10月3日の回答にもある通り、寮の設備面において築年数相応の老朽化がみられるという事実は、入寮を検討している学生に当然伝えられるべきことであると思います。しかしながら、不具合のみられる諸設備にはその都度修繕が入っており、日常生活を送る上で著しい支障があるとは考えられません。また、建物自体の耐震・耐久性に関しては、専門家の判断のもとで問題がないとの結論が出ています。入寮前の情報提供という意味でも、文書内に既にあるような見学を推奨する文言で十分であり、老朽化を殊更に強調する意味は薄いと考えています。

以上のことを鑑みると、当該記述は現在の学寮の実状を正確に表す記述としては不適當なものです。前文でも申しましたが、当記述は入寮を検討する学生の不安をいざずらに煽り、さらには本来不必要であった経済負担を押し付けてしまう可能性のある内容です。

学寮というのは、地理的、経済的、身分的状况に関係なく全ての学生に就学の権利を保障することを重要な存在意義の一つとして持つはずで、日就寮はそれを守ることを理念とする自治寮として、このような影響を及ぼしうる記述を看過できません。

私たちのこの指摘を受けてなお、あえてこれからも同様の記述を続けるのであれば、それはもはや学生への配慮ではなく、学生の権利を侵害する悪質な行為に他なりません。

よって当該記述の撤回、あるいは特記事項の改正を改めて求めます。